

伝承遊びを通じた世代間 交流を楽しむ



RECREATION

まずは一步を踏み出して～おばあちゃんに支えられて楽しさが膨らむ～
お茶のみも楽しみの1つであり、さらに楽しさを膨らませるきっかけ
地域の子ども達に楽しみにの場を聞き、一緒に楽しむ。

楽しんだ成果をむりなく形にすることで、さらに楽しさが膨らむ
振り返ればこんなこともできていた。

レポートをひもとく・1

レポートをひもとく・2

参考例の概要は

この参考例は、子育て世代のグループが、子ども達にテレビゲームや携帯ゲームではない、人と人がふれあいながら楽しめるような遊びを提供したいという思いからはじまります。そして、伝承遊びが良いのではということで、地域の高齢者から伝承遊びを学び・楽しむ活動を1～2ヶ月に1回の頻度で行います。会を重ねる内に、そうした機会を子どもたちにも開放して楽しんでもらったり、教えてもらった遊びをパンフレットにして児童館などに配り、活用してもらったりしています。

地区センターで行われる集まりには、数名の高齢者や子ども達が顔を見せ、そうした機会は、子ども達と高齢者のふれあい・交流の場となったり、遊びを教えてくれる高齢者の生きがいづくりにもなっています。

ちなみに、この事業グループを巡る面々は次の通り

番 頭：子ども達にテレビゲームとは異なる遊びを提供したいという意識を共有する子育て世代のグループ

ご隠居さん：番頭の知り合いで、昔遊びを良く知っており、小さい頃は“やんちゃ”だったおばあちゃんと、そのお友達。さまざまな伝承遊びや小さい頃のお話を聞かせてくれた

常連さん：ご隠居さんのお友達3名程度。集いに顔を覗かせては遊びを楽しんだり、小さい頃のお話を聞かせてくれた

こんな応用も

- ・楽しんだ伝承遊びの遊び方をまとめたパンフレットに目を留めた人から、「自分たちの子ども達にも紹介したいので是非遊びを教えて欲しい」なんて問い合わせに対応し、楽しさを広げる
- ・学校週5日制の受け皿づくりがどの地域でも課題になっていることを考えると、参考例のような小さなグループがその一端を担う
- ・総合的な学習の時間に、伝承遊びの知恵が取り上げられたり、“ご隠居さん”との世代間交流を通じた子ども達の生きる力に役立ったり、と可能性は広がる